

年末から年始にかけてご親戚の方などとも顔を合わせ、貴重な経験を持ったご家庭も多かったことと思います。お子様方に年始に顔を合わせると、ちょっと恥ずかしそうに「あけましておめでとうございます」とご挨拶をしていただき嬉しく思いました。いつごろからか当たり前に感じるこうした言葉も、年に一度しか口にしない大切な言葉です。そして大人が言わなければお子様方も聴くことがない言葉ですね。

「今年もどうぞよろしくお願ひいたします」



「表情・体」や「言葉」で表す成長の源は「あそび」



冬らしい寒さが続いています。お子様方は、園庭遊びでは少々の寒さは気にも留めません。砂遊びでじっとして遊ぶよりかけっこの方が温まるのではないかと誘っても、砂遊びを続けるお子様もいれば、汗をかくほどに走りまわり顔がほてっているお子様もいます。遊びの種類・場所によらず、子どもは、彼らの物語の中に入り込んで遊んでいます。砂を掬ってレストラン、お店屋さん、穴を掘っているかと思うと工事屋さん、走りまわっていると思えば鬼ごっこ、かくれんぼ等々。何をしようかと考えるより先に体が動いていています。特に年少さんくらいまでは、夢中になればなるほど言葉は必要ないといわんばかりに「動き」が遊びを支配しているように見えます。

新生児は言葉を持っていませんが、生後4か月くらいには表情や動きで人に気持ちを伝えるすべを得るといいます。言葉という共通のコミュニケーションツールを獲得しつつある年中・年長さんは、その力を遊びの中でフルに活用しています。まだまだお互いの気持ちの齟齬から叩いたり、押したりという表現もありますが、たくさんの時間をかけた「遊び」は、お子様たちの「言葉による表現」を育てていると感じます。



最初はお互い 緊張していたけれど・・・

学校探検やホールで一緒に遊んだら もう「友だち」

幼小連携の一環として、先日豊島小学校に伺い1年生と活動をしてきました。1年生も年長さんも最初はとても緊張をしていました。お互いの自己紹介から始まり、小学校について知りたいこと、聞きたいことを小学生に質問をして少しだけ緊張がほどけました。このあと「おちゃらか」「なべなべそこぬけ」「じゃんけん列車」で手をつなぎ、肩をもって電車になって動き始めじゃんけんをして勝ち負けを味わい、列車が長い一両になった時、1年生と年長さんの垣根がなくなりました。

まさに「言葉」だけではなく「表情や動き」がコミュニケーションツールになりました。「友だちになる」という表現がぴったりの活動でした。私どもも小学校教育に理解を深め幼少連携に取り組んでまいります。

